

3-1 動線・交通計画

3-1では、前述した幹線道路の位置づけ（P.1-15参照）や土地利用ゾーニング（P.2-3参照）、周辺の公共施設や観光拠点の分布状況等を踏まえ、新幹線飯山駅周辺地区がその拠点となる歩行者系動線や自動車動線の考え方を設定する。

1) 歩行者系動線

新幹線飯山駅周辺地区の歩行者、自転車等の歩行者系動線については、次のような利用者を想定することができる。

- ①新幹線飯山駅周辺に住まいを持ち、通勤・通学、生活、ビジネスや旅行等の目的で、徒歩または自転車によって駅と住まいとの間を往復する市民（周辺住民の鉄道利用者）

周辺住宅地～飯山駅までの歩行者系アクセス

- ②同じく新幹線飯山駅周辺に住まいを持ち、駅周辺地区に通勤・通学、業務、買い物、交流、各種生活利便施設利用等の目的で、徒歩または自転車でアクセスする市民（周辺住民の中心市街地利用者）

周辺住宅地～駅周辺公共施設、商店街等への歩行者系アクセス

- ③新幹線や在来線、路線バス等の公共交通機関を利用し、駅周辺地区に通勤・通学、業務、買い物、交流、各種生活利便施設利用等の目的でアクセスする市民（郊外部からの中心市街地利用者）

飯山駅～駅周辺公共施設、商店街等への歩行者系アクセス

- ④新幹線や在来線を利用し、飯山駅に降り立つ観光や買い物目的の来街者

飯山駅～中心市街地内の寺町、飯山城趾公園等の観光拠点への歩行者系アクセス

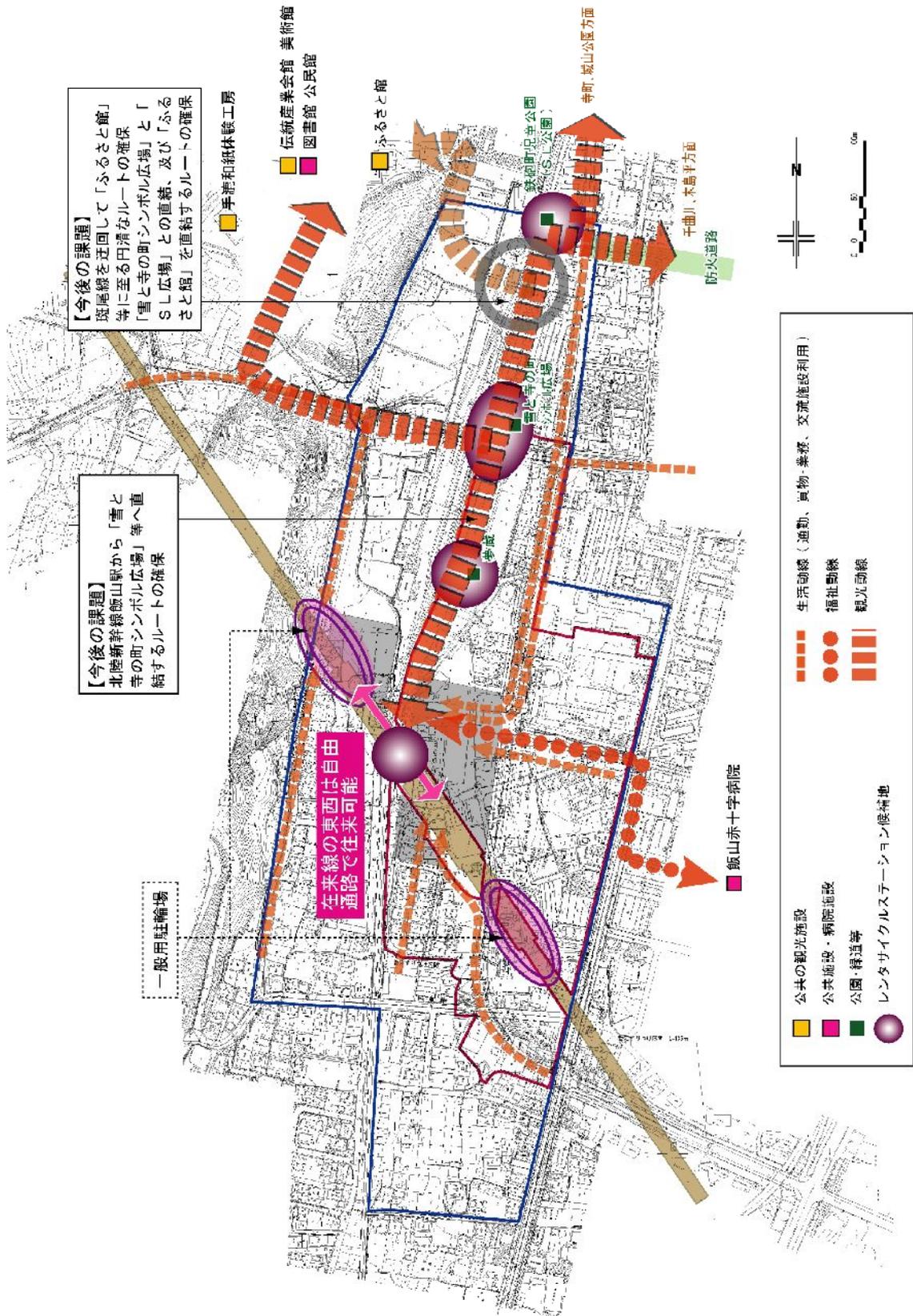
新幹線飯山駅からの歩行者系アクセスを重視すべ公共施設としては、次のようなものがあげられる。

- ・飯山赤十字病院（入院・外来患者、見舞客等）
- ・社会福祉センター（現在地からの移転を予定）
- ・市立図書館、美術館、伝統産業会館、中央公民館、ふるさと館等が集積する、いわゆる飯山市のシビックセンターエリア
- ・飯山市役所、飯山警察署、飯山中央郵便局、金融機関等
- ・市民会館、武道館・弓道場、飯山城趾公園
- ・飯山北高等学校等の教育機関

具体的な歩行者系動線については、図表 3.1 に示すようになる。駅前広場から駅前線を経由して飯山赤十字病院に至るルートについては、高齢者や身体障害者等が安全かつ暗視して通行できるようなユニバーサルデザインが特に求められる「福祉動線」と位置づけられる。

一方、駅前広場から「雪と寺の町シンボル広場」に至り、飯山市のシンボリック的存在である愛宕町・寺町、ふるさと館や美術館、伝統産業会館等に至る南北ルートについては、歩く旅を志向する旅の来訪者が、安全かつ地域の人々の交流を楽しみながら、ゆっくりと歩ける「観光動線」と位置づけられる。このため対象地区内の「雪と寺の町シンボル広場」は、現在の飯山駅が移設後も駅前広場と連担して、旅の来訪者が憩いや交流、集散等の目的で利用する重要な広場空間を成す。なおこれにより、駅前広場と「雪と寺の町シンボル広場」を直結する歩行空間の確保が是非望まれる。

■図表 3. 1 歩行者系動線計画



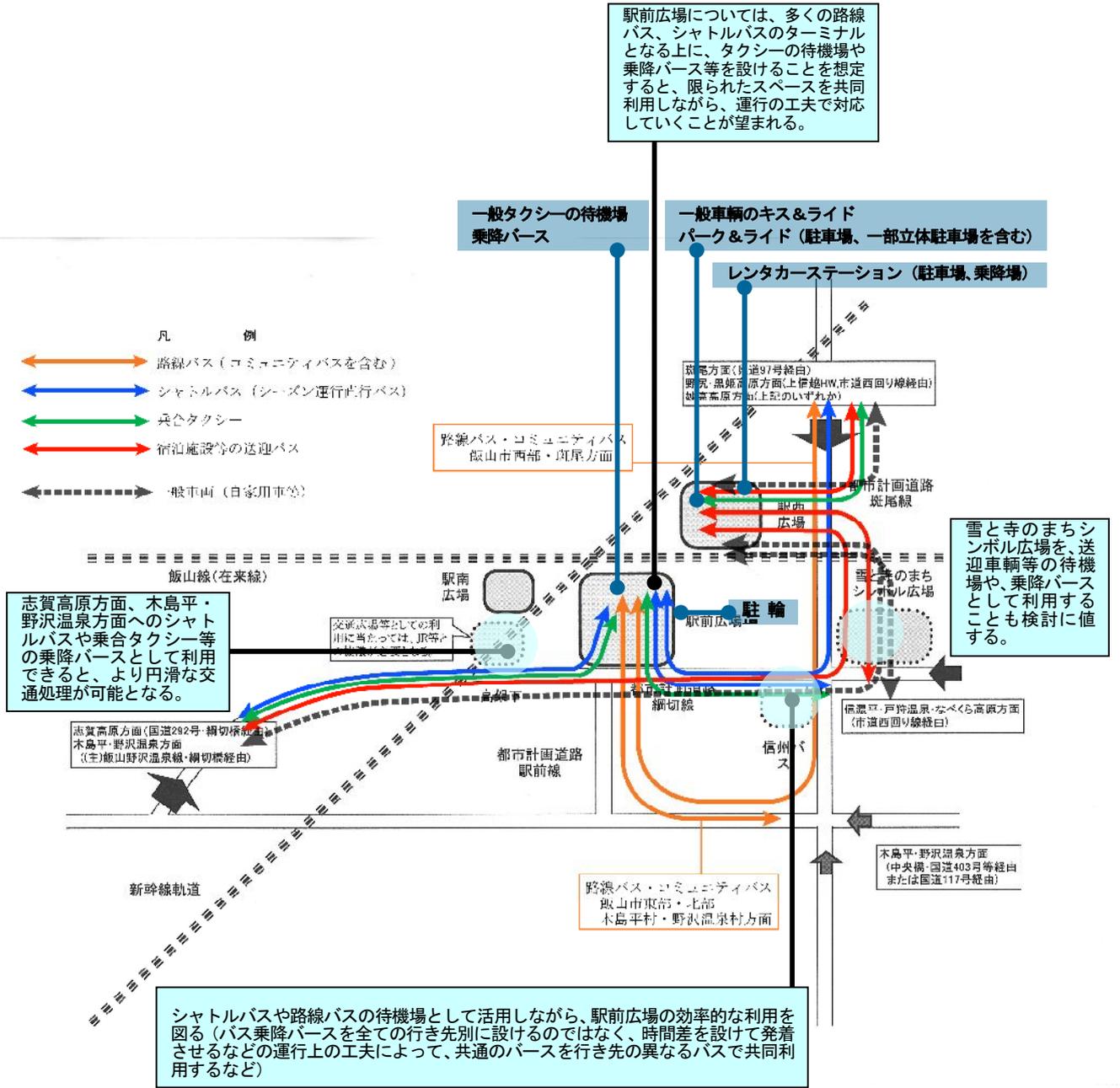
2) 自動車動線

パーク&ライドやバス等の公共交通機関で飯山駅を利用する市民および周辺地域住民の利用目的は、通勤、買物、業務、遠距離の旅行などであろう。

一方飯山駅は、周辺の信越高原エリアが我が国でも有数の山岳高原リゾートを成し、スキーと温泉、自然体験等を主な魅力とする北信地域の新たな玄関口として期待されている。飯山駅に降り立ち、自動車交通を利用する域外からの来訪者の目的は、観光が中心となってこよう。広域的な誘致力を持つ信越高原エリアの山岳高原リゾート基地や温泉地の魅力を考えると、これらと連絡する観光2次交通に対する需要は大きいと予想される。本調査と並行した「信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査」において実施した、周辺観光事業者（宿泊施設事業者）を対象としたアンケート調査結果をみても、新幹線飯山駅への送迎車の配車を予定していたり、公共交通機関の整備を希望するニーズが強い。なお同調査においては、周辺に散在する観光基地への旅人の足として、路線バス等の活用と新規路線の整備とともに、シャトルバスや乗合タクシー、レンタカー等の導入が提言されている。

飯山駅を上記のような目的で利用する乗降客に応じて、自家用車および多様な公共交通機関が安全かつ円滑に通行できるとともに、乗降客がわかりやすく快適に利用できるような自動車交通動線や交通ターミナルのあり方が求められる。ここでは、観光基地別に鉄道利用者数を推計するとともに、自動車交通動線および交通ターミナルにおける行き先別・交通機関別の分担のあり方を詳細検討し、有力案として図3.2に示すような交通計画を設定する（付属資料参照）。

■図表 3.2 交通広場別自動車交通の分担計画



3-2 公共施設配置計画

対象地区における公共施設については、土地区画整理事業における合理的な換地を実現しながら、本地区が目指す土地利用や交通動線の実現、良好な景観や環境の形成、本地域の歴史や文化の継承などのための拠点として、適切かつ効率的に配置することが求められる。

1) 公共施設配置の考え方

公共施設配置の具体的姿を整理すると図表 3.3 のようになる。以下には、交通広場、公園・緑地等に分けて、その配置の要点を整理する。

(1) 交通広場

交通広場については、駅前広場（駅東広場）、駅西広場、駅南広場の3カ所がそれぞれ機能を分担しながら、多様な交通を円滑に捌き、交通結節機能を充足していくことが望まれる。

また駅前広場（駅東広場）は、飯山駅周辺地区における緑豊かな景観形成や、交流や賑わい形成の中核的な役割も併せて持つものである。

(2) 公園・緑地

公園・緑地系の公共施設としては、駅前広場から、寺町やふるさと館等シビックセンターエリアへの重要拠点となる「雪と寺の町シンボル広場」に至る、快適な歩行者系アクセスを確保するため、在来線に沿って線状の緑地を配置する。

また「健康とやすらぎのみち」として位置づけ、特にバリアフリー化を図っていく駅前線の起点となる駅前広場対面にも緑地を配置することとする。

新幹線軌道の沿線は、日陰対策および騒音等の影響を軽減するための緩衝緑地を配置することとする。なお高架下については、公園緑地や駐車場等として有効利用を図っていくことが望まれる。

(3) 仮称：旅の交流拠点施設（駅舎合築施設）

本調査と並行して実施した「信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査」において、新幹線飯山駅の広域観光ゲートウェイ整備の必要性や整備の方向が明らかにされている。こうした提言を受けて、以下のような機能を持つ『旅の交流拠点施設』を、新幹線飯山駅駅舎と一体的な空間で(すなわち合築で)整備する計画が合意を得つつある。

〔旅の交流拠点施設の基本機能〕（詳細は付属資料参照）

- A：観光情報収集・分析、提供機能
- B：地域情報提供機能
- C：住民・旅人の交流機能
- D：観光2次交通ステーション機能

■図表 3.3 公共施設配置の考え方

